

令和２年度 西都市立妻中学校 自己評価及び外部評価書

【評価段階】 ４：期待以上である（８０％以上） ３：ほぼ期待どおりである（５０％以上 ８０％未満）

２：ほぼ期待どおりである（２０％以上 ５０％未満） １：改善を要する（２０％未満）

評価指標	実践項目	自己評価	学校の評価コメント	外部評価	外部評価コメント
学力の向上	授業時数の確保と指導の充実	3	○休校分も授業時数を取り戻すことができた。	3	○コロナ感染症のため大変だったと思う。
	教え合い、助け合う場の設定	3.3 3.5	○コロナ禍においてなかなか実現できなかった。 ○ペア学習やグループ学習など教科の特性に合わせて行っている。	3.8	○主体的に学ばせることで学力向上が進められるとよい。 ○教師から生徒へ一方的な授業にならないように努めていただきたい。
生徒指導の充実	自治的な学級活動の推進	4 3.5	○委員会活動を中心に生徒を動かすことができた。 ○学年委員会を組織している。 ○行事ができないためリーダーの育成が十分でない。	4	○コロナ感染症のため、行事が縮小されているが、生徒に活躍の機会を与えてほしい。
	配慮を要する生徒の支援の充実	3	○担当を中心に一人一人の特性を踏まえ配慮できた。 ○家庭訪問や連絡相談をよく行っている。	3.9	○家庭訪問をよく実施していただいていることが分かった。
健康・体力の増進	生徒主体の部活動への転換	3	○主体的に活動することができている。 ○生徒が必要な練習を考え、それに対してのアドバイスをしている。 ○どうしても顧問主体になってしまう。もっとキャプテンを中心にすべき。 ○生徒の技能に合わせて活動することができた。 ○部活動が楽しいと答えた生徒は９０％。臨時休業のため生徒主体の部活動への転換は難しかった。	3	○顧問が部活動指導に来るまでの時間もキャプテンを中心に自主的に練習に取り組んでいることが分かった。
不登校対策の推進	関係機関等の連携の推進	3	○家庭訪問や関係機関と連携し、推進することができた。 ○みつばルームと連携して学習や進学の支援を行っているが、登校できない生徒が増えてしまった。	3.8	○学校だけでなく、関係機関との連携を深めながら、今後も指導を進めていただきたい。

